



9:46 シェケムのやぐらの者たちはみな、これを聞いて、エル・ベリテの宮の地下室に入って行った。

9:47 シェケムのやぐらの者たちがみな集まったことがアビメレクに告げられたとき、

9:48 アビメレクは、自分とともにいた民とツアルモン山に登って行った。アビメレクは手に斧を取って、木の枝を切り、これを持ち上げて、自分の肩に載せ、共にいる民に言った。「私がするのを見たとおりに、あなたも急いでそれとおりにしなさい。」

9:49 それで民もまた、みなめいめい枝を切って、アビメレクについて行き、それを地下室の上に置き、火をつけて、地下室を焼いた。それでシェケムのやぐらの人たち、男女約一千人もみな死んだ。

9:50 それから、アビメレクはテベツに行き、テベツに対して陣を敷き、これを攻め取った。

9:51 この町の中に、一つ、堅固なやぐらがあった。すべての男、女、この町の者たちはみなそこへ逃げて、立てこもり、やぐらの屋根に上った。

9:52 そこでアビメレクはやぐらのところまで行って、これと戦い、やぐらの戸に近づいて、それを火で焼こうとした。

9:53 そのとき、ひとりの女がアビメレクの頭にひき臼の上石を投げつけて、彼の頭蓋骨を砕いた。

9:54 アビメレクは急いで道具持ちの若者を呼んで言った。「おまえの剣を抜いて、私を殺してくれ。女が殺したのだと私のことを人が言わないように。」それで、若者が彼を刺し通したので、彼は死んだ。

9:55 イスラエル人はアビメレクが死んだのを見たとき、ひとりひとり自分のところへ帰った。

9:56 こうして神は、アビメレクが彼の兄弟七十人を殺して、その父に行った悪を、彼に報いられた。

9:57 神はシェケムの人々のすべての悪を彼らの頭上に報いられた。こうしてエルバアルの子ヨタムののろいが彼らに実現した。

人々は地下室、またやぐらに逃げ込みましたが、アビメレクは容赦なく彼らを焼き殺しました。そこで無名の女性が（おそらく復讐心にもえてでしょう）アビメレクの頭に思い石臼を落とし、彼の頭蓋骨を砕きました。聖書はこれを「ヨタムののろいが彼らに実現した」と記し、暴虐の者は必ず自らもたらした恨みによって滅びることを示唆します。

士師記では「神を忘れた者の愚かしさ」を表します。ここではアビメレクもそうですが、当初は彼にそのような権力を与えたシェケムの人々も「神を忘れた」という点では同じです。何の得るものも、また次世代に何の価値あるものも残すことができずに滅びてしまいました。

神様のために、その愛と救いのために戦うならばそのようなことはありません。必ず価値あるものを得、また価値あるものを残すので。もう1度、ギデオンの三百人の勇者の信仰を思い出し、よき証しとなって生きましょう。

またどちらが勝っても神の栄光にならないような争いをしてはいないか、自分の現状を見つめてみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

